

小杉町埋蔵文化財発掘調査一覧

1996年度



1997年3月

富山県小杉町教育委員会

例　　言

- 本書は平成8年度に実施した、埋蔵文化財分布調査及び発掘調査の概要をまとめたものである。
- 本書に収録の調査は、小杉町教育委員会の原田義範・福垣尚美が行った。
- 平成2・3年に実施した太閤山カントリークラブ地内遺跡の発掘調査報告書の刊行事業については、富山県埋蔵文化財センター所長代理 上野 章氏、富山大学理学部教授 広岡公夫氏、山武考古学研究所（所長 平岡和夫）の協力を得た。
- 埋蔵文化財調査にかかる事務局は小杉町教育委員会生涯学習課に置き、調査事務を文化財保護係長 古城久則が担当し、生涯学習課長 河畠 淳が総括した。
- 調査の実施にあたり、富山県教育委員会文化課、富山県埋蔵文化財センターから指導・協力を得た。また、調査から報告書作成に至るまで次の方々や諸機関から教示・協力をいただいた。記して謝意を表したい。（五十音順 教称略）
安念幹倫・池野正男・伊藤隆三・上野 章・上田晃道・越前慶祐・大垣安和・尾野寺克実・関 清・久々忠義
京田良志・高梨清志・田中俊雄・塙田一成・西井龍儀・林寺嚴州・宮田進一・山内賛一
明里機材運輸㈲・伊勢住建㈱・㈱中央倉庫・㈱福波ドライブ・太閤山観光㈱・富山県高岡土木事務所
富山県高岡農地林務事務所
- 調査を実施した遺跡の出土遺物は、HS-04遺跡（親水公園）の調査事務所及び町立太閤山小学校の教室を借用して整理を行い、遺物・原図・写真類は小杉町教育委員会が保管している。
- 本書の編集・執筆は、原田・福垣が行った。

目　　次

1. 平成8年度の概要	1	4. 本調査	14
2. 分布調査	2	HS-04遺跡 [No.1]	14
3. 試掘調査	3	HS-04遺跡 [No.2]	15
中山北B遺跡 [No.1] [No.3]	4	愛宕遺跡 [No.4]	15
加茂社遺跡 [No.4・10・11]	4	HS-03遺跡 [No.5]	15
太閤山ランド内No.7遺跡 [No.5] [No.6]	5	5. 普及・活用	16
HS-04遺跡 [No.7・8]	6	Noは()が試掘、[]が本調査の一覧表の番号を示す	
白石遺跡 [No.3]	6		
塙越B遺跡 [No.6]	7		
池多I遺跡 [No.12]	7		
大白北遺跡 [No.13]	7		
高寺遺跡 [No.2・9]	8	表紙写真は、HS-04遺跡（親水公園）の調査状況（南西から）	

凡　　例

- 本文中の発掘区図版の試掘トレンチ脇の記号は遺物の出土位置を示し、種類は次のとおりである。

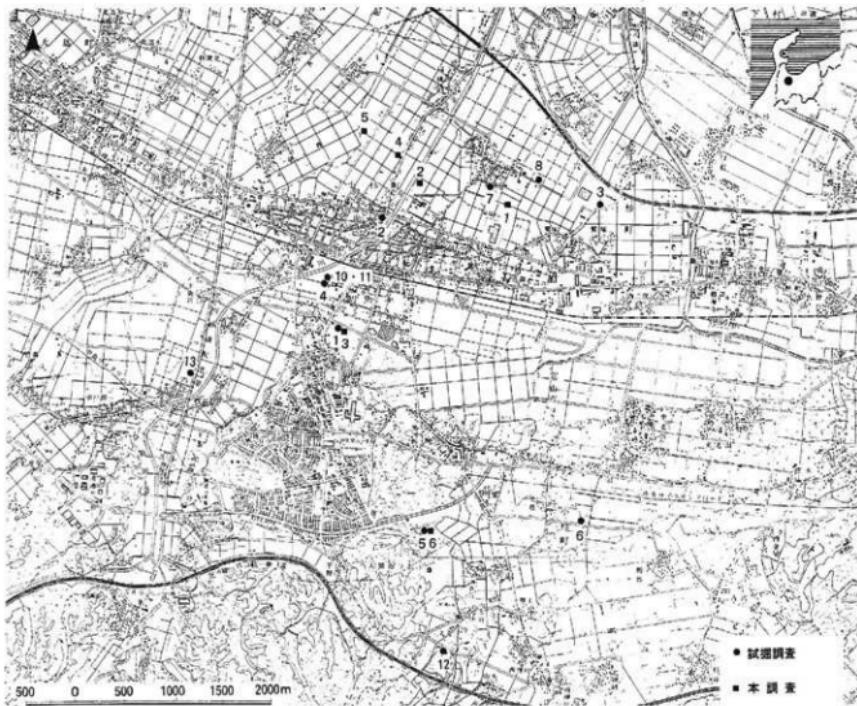
● 繩文土器	▲ 石器・石製品	□ 弥生土器	▽ 土師器	△ 須恵器
■ 珠洲	▣ 中世土師器	◎ 木製品	○ 陶磁器	★ 近代陶器

1. 平成 8 年度の概要

平成 8 年度に小杉町教育委員会が実施した埋蔵文化財の調査件数は、分布・確認調査 32 件、試掘調査 13 件、本調査 6 件であった。このうち、丘陵部では今年度の本調査ではなく、その他の調査にても調査全体の 2 割弱と少ない状況であった。これにくらべ平野部では、公共事業に先立つ大規模な本調査と民間による大小様々な開発計画や個人住宅建設に先立つ事前調査が増え、8 割強を占めるに至った。平野部での調査増大的要因としては、近隣市町村の市街化区域の減少により、当町での開発計画が増える傾向にあること、近年の道路網整備に伴い大小様々な店舗の出店が増え、生活環境の利便性が高まったことによるものなどが考えられる。また、現在工事が進められている公共下水道の供用が開始されれば、更に宅地造成などの開発が急増することが予想される。

調査体制は、町の調査員 2 名でこれらすべての調査を分担して行っている。今年度は 2 箇所で平行して大規模な本調査が行われたため、各 1 名ずつがこれに当たり、分布・試掘調査は本調査との調整を計りながら対応する状況が続いた。また、未報告分の遺物整理が 2 事業あるが、現地調査を優先して行っているため大幅な遅れが生じている。

今後急増が予想される開発に対して、造成に先立つ充分な遺跡の保護措置や発掘調査及び報告書刊行を含めた遺物整理、埋蔵文化財の周知と取り扱い窓口などを含めた調査体制の充実が早急の課題となっている。



第 1 図 調査位置図（数字は調査一覧表の番号を示す。）

2. 分布調査

町では、周知の埋蔵文化財包蔵地の隣接地及び未踏査区域で行われる公共事業や民間の各種開発に先立ち、関係機関や事業者と協議を行い事前に現地確認をし、遺物の散布状況を把握するための遺跡の分布調査を実施している。本年度埋蔵文化財包蔵地の隣接地等で依頼のあった調査件数は26件で月平均数件程度である。また未踏査地区での確認調査は十数件である。いずれの場合も開発計画に呼応した調査である。

周知の埋蔵文化財包蔵地は、小杉町全図（1万分の1）に記載され、町教育委員会の窓口に備え付けられており、分布調査で新たに発見された遺跡は登載し、その後周知の遺跡として取り扱われる。

No.	所在地	原因	調査日	対象面積	対象地の種別	現況	探査遺物	開発への対応
1	戸塚字加茂 1555-1外	店舗建設	H8. 6.18	10,683.79m ²	未踏査地	標高4.5mの水田		支障なし
2	黒河字尺目 2513	個人住宅建設	H8. 7. 3	656.00m ²	黒河尺目遺跡隣接	標高8.2mの水田		支障なし
3	土代字三度山 898-1	個人住宅建設	H8. 7.12	340.00m ²	未踏査地	標高22.0mの畠地		支障なし
4	鷲塚442-3外	個人住宅及び農機具格納庫建設	H8. 7.15	1,142.00m ²	未踏査地	標高2.3mの植生地		支障なし
5	池多788-2	個人住宅建設	H8. 7.15	602.00m ²	未踏査地	標高34.8mの宅地		転用済み
6	白石634-4	個人住宅建設	H8. 7.17	343.00m ²	HS-04遺跡隣接	標高2.0mの既存宅地		転用済み
7	鷲塚904-1	駐車場建設	H8. 7.17	296.00m ²	(白石遺跡内)	標高2.4mの荒蕪地		試掘調査実施
8	中老田字加茂 5597-1	店舗建設	H8. 7.24	526.00m ²	鷲塚A遺跡隣接	標高16.0mの竹林		支障なし
9	青井谷字水上 4471-1	個人住宅建設	H8. 8.14	948.00m ²	未踏査地	標高34.0mの既存宅地		転用済み
10	黒河新字池野 1797外	個人住宅建設	H8. 8.14	668.00m ²	未踏査地	標高7.0mの植生地及び湿地		支障なし
11	三ヶ2588-1	アパート建設	H8. 9.17	1,065.14m ²	伊勢原遺跡隣接	標高5.0mの水田		支障なし
12	津土寺12外	個人住宅及び資材置場建設	H8. 9.17	1,437.00m ²	未踏査地	標高14.7mの畠地		支障なし
13	大江272-1	農機具格納庫建設	H8. 9.19	355.00m ²	HS-04遺跡隣接	標高2.5mの水田		支障なし
14	戸破字西反田 893外	医療建設	H8. 9.19	732.00m ²	未踏査地	標高4.5mの水田	弥生土器1点 近世陶器1点	支障なし
15	三ヶ2014-1外	(事業計画地)	H8. 9.19	995.00m ²	水上本郷免遺跡隣接	標高6.0mの水田		支障なし
16	下条1305	自動車修理工場建設	H8. 9.19	1,150.00m ²	未踏査地	標高5.8mの水田		支障なし
17	戸破4347-1	住宅敷地新張	H8. 9.25 約	400.00m ²	HS-04遺跡隣接	標高2.2mの畠地	(弥生土器・須恵器)	詳細調査必要
18	三ヶ2571外	駐車場建設	H8.10.15 約	1,000.00m ²	伊勢原遺跡隣接	標高4.5mの水田		支障なし
19	戸塚字加茂 1717外	宅地造成	H8.10.15	1,682.00m ²	未踏査地	標高5.2mの水田		支障なし
20	手崎字払堂 419外	宅地造成	H8.10.22	1,982.02m ²	未踏査地	標高2.9mの水田	弥生土器1点 須恵器1点	支障なし
21	池多891-1外	老人ホーム増築	H8.11. 6	616.00m ²	(池多1遺跡内)	標高47.5mの水田		試掘調査実施
22	戸破字後宝 1314	宅地造成	H8.11. 6	585.00m ²	未踏査地	標高4.5mの水田		支障なし
23	黒河新2156-1 外	自動車販売場造成	H8.11. 6	189.00m ²	(表野遺跡内)	標高13.0mの水田		転用済み
24	鷲塚702	駐車場建設	H8.12.10	492.00m ²	未踏査地	標高2.2mの水田		支障なし
25	戸破4150外	宅地造成	H8.12.16	1,982.00m ²	HS-04遺跡隣接	標高2.2mの水田		支障なし
26	戸破3349-1外 大江444-1外	(事業計画地)	H9. 2.25 約	18,425.00m ²	戸破若宮遺跡隣接 HS-04遺跡内	標高3.2mの水田		試掘調査必要
27	下条1996-3	住宅敷地新張	H9. 2.28	50.00m ²	大北遺跡隣接	標高7.9mの畠地		支障なし
28	戸破字西反田 998-1外	資材置場建設	H9. 2.28	1,447.00m ²	未踏査地	標高5.0mの畠地		支障なし
29	宿屋1	資材置場建設	H9. 2.28	715.00m ²	未踏査地	標高5.5mの資材置場		転用済み
計 29件		述べ	17日間	面積	約51,501.95m ²			

表1 現地確認・分布調査一覧

3. 試掘調査

平成8年度に町教育委員会が実施した試掘調査は、都市計画街路改良の公共事業を含めて9遺跡13件であった。試掘の結果、本調査が必要になった調査は3箇所あり、そのうち2箇所は小範囲が本調査の対象となったため、引き続調査を行い終了した。残りの1件は、平成9年度に対応することになった。

No.	遺跡名	所在地	原因	調査期間	対象面積	試掘面積	種別	検出遺構	出土遺物	開発への対応
1	中山北B (381034)	戸破字加茂1639 外4丁目	店舗建設	H8. 4.26 (延べ1日間)	3,091m ²	217m ²	純文化 敷布地 集中箇所 1箇所	織文土器、石器、弥生土器 土師器、須恵器、鉄滓 中世土器類、珠洲 越中瀬戸、石製品(鏡) 木製品(板材)		支障なし
2	高寺 (381020)	三ヶ字茶ノ木 1597-7外	道路拡幅工事	H8. 8. 5~8. 9 (延べ5日間)	651m ²	57m ²	社寺 敷布地	土坑1 井戸1基 溝1条	弥生土器、須恵器、土師器 縄文陶器、珠洲 中世土器類、越中瀬戸 土器、瓦、伊万里 木製品(井戸側・梢杓・桶 桶底板)、石製品(砾石)	平成9年度 本調査予定
		三ヶ字茶ノ木 1598-3外	道路拡幅工事	H8. 9. 4~9. 13 (延べ7日間)		50m ²	社寺 敷布地	溝1条 墓塚 土坑	須恵器、珠洲、越中瀬戸 金属製品(馬具・五筋杵・ 伏姫・輪入鏡・寛永通宝) 木製品(折敷・枕)	
3	白石 (381006)	磐塚904-1外1筆	駐車場建設	H8. 9. 25 (延べ1日間)	334.72m ²	25m ²	墓落 敷布地	溝1条	木製品(漆椀)	支障なし
4	加茂社 (381028)	戸破字加茂2016-2	個人住宅建設	H8.12.13 (延べ1日間)	330.58m ²	22m ²	墓落 敷布地	川跡1条	弥生土器、珠洲	支障なし
5	太閤山ランド 内No.7 (381074)	黒河4774-6 (女池内)	女池浚渫工事	H8.12.24 (延べ1日間)	3,000m ²	219m ²	墓葬 敷布地	土坑1		本調査必要
6	深堀B (381081)	越原1305-1	格納庫建設	H9. 1.17 (延べ1日間)	252m ²	30.4m ²	製鉄 溝		土師器、鉄滓	支障なし
7	H.S-04 (381004)	大江437-1	個人住宅建設	H9. 3.14 (延べ1日間)	419m ²	32.5m ²	墓落 敷布地		弥生土器、近世陶器、磁器	支障なし
8	H.S-04 (381004)	大江184外	道路拡幅工事	H9. 3.14 (延べ1日間)	2,343m ²	49.2m ²	墓落 敷布地			支障なし
9	高寺 (381020)	三ヶ字茶ノ木 1597-8	ケーブル敷設	H9. 3.17 (延べ1日間)	4m ²	4m ²	社寺 敷布地			支障なし
10	加茂社 (381028)	戸破字加茂2017	個人住宅建設	H9. 3.19 (延べ1日間)	714m ²	82m ²	墓落 敷布地		弥生土器	支障なし
11	加茂社 (381028)	戸破字加茂2018 外1筆	宅地造成	H9. 3.19 (延べ1日間)	1,456m ²	136m ²	墓落 敷布地		弥生土器、土師器、須恵器 鉄滓、近世陶器、磁器	支障なし
12	池多1 (381166)	池多819-1外1筆	特別養護老人 ホーム増築	H9. 3.21 (延べ1日間)	616m ²	64.5m ²	敷布地			支障なし
13	大白北 (381296)	下条1969外17筆	合掌建築	H9. 3.25~28 (延べ4日間)	13,068m ²	603m ²	敷布地 溝		弥生土器、須恵器、珠洲 近世陶磁器	支障なし
計	9遺跡	延べ27日間	対象面積	26,279.3m ²	試掘面積	1,591.6m ²				

表2 試掘調査実績一覧

中山北B遺跡（No.1）[No.3]

遺跡は、丘陵裾部の標高約5mの平野部に立地する。

調査は、オートバックス建設計画地の南側の半分が遺跡内に位置するため、遺跡にかかる部分から試掘を実施し、計画地全体にトレチを設定した。

1トレチ西側部分の遺構確認面直上の土層から縄文土器がまとめて確認されたため、この付近を中心に約210m²を拡張し、遺構及び土器散布の広がりを確認する調査を引き続き行ったが、新たな遺構や遺物の広がりは見られなかった。

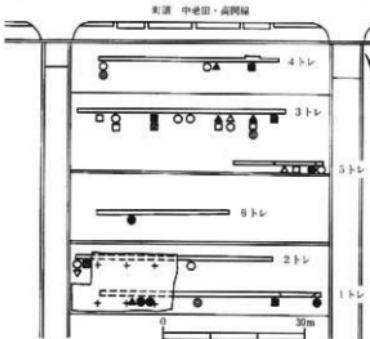


第2図 調査位置（1：10,000）

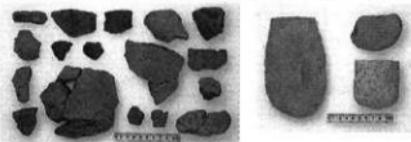
加茂社遺跡（No.4-10-11）

遺跡は、下条川右岸の標高約5mの平野部に立地し、東側に加茂社が位置している。平成5・6年に隣接地で発掘調査が行われ、弥生時代後期・奈良から平安時代を中心とする集落に伴う遺構遺物が確認されている。

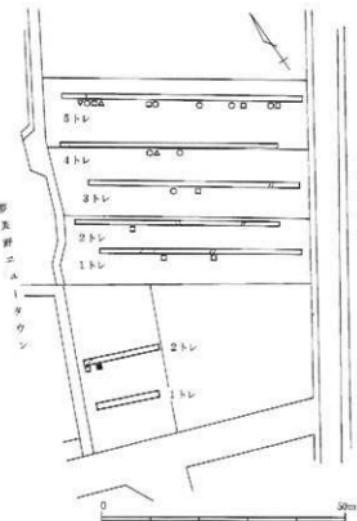
今回調査では、耕作土及び下層から弥生時代～近世までの遺物が十数点出土したが、明確な遺構は確認されなかった。



第3図 発掘区



中山北B遺跡 拡張部分と出土遺物



第4図 発掘区

太閤山ランド内№7遺跡（№5）〔№6〕

遺跡は、丘陵部谷間の緩斜面及びたぬ池に位置したが、現在は築堤などにより整備された女池の池底の一部に造成前の地形が残存している。

調査は、公園内の雨水などにより堆積した汚泥を浚渫する工事に先立ち実施した。

調査の結果5トレンチから北側は、築堤工事などにより地山が掘削されており旧の地形は残っていないかった。

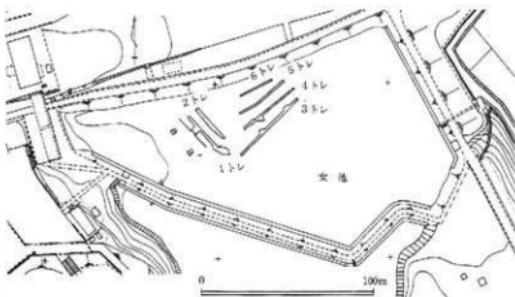
1トレンチの西側拡張部分に木炭が混在する土坑（第6図）の一部分を検出した。出土遺物はない。



第5図 調査位置 (1 : 10,000)



調査地全景（西から）



第6図 発掘区

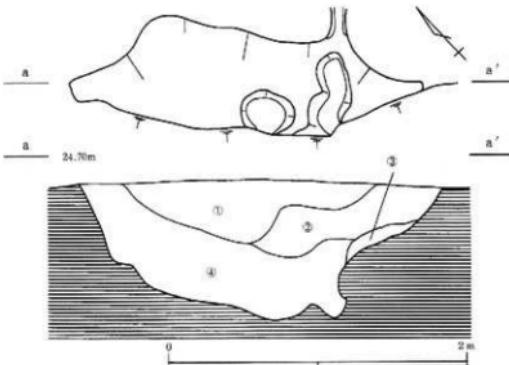


SK01の土層（西から）



SK01 (北から)

土坑（SK01）



SK01は、池底の掘削断面に黒褐色土の 第7図 SK01遺構図

①明黄褐色土 ②暗黄褐色土 ③明黄褐色土 ④黒褐色土
落ち込みが露出していたことにより見つかっ

ている。このため断面に平行するように1・2トレンチを設定し、遺構の広がりを確認した。南北0.60m、東西2.24m、深さ0.88mの土坑の一部分が遺存していた。4層に木炭片がわずかに混じっていたが、その他の出土遺物はない。

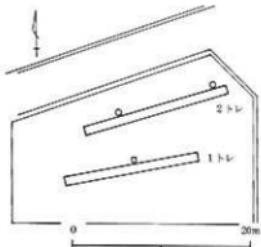
HS-04遺跡 (No.7・8)

遺跡は、下条川右岸の標高約1.2~3.3mの平野に立地し、高地上に弥生時代の集落が点在する傾向が見られる。また、近年の調査で中世から近世の集落に関連した遺構も確認されている。

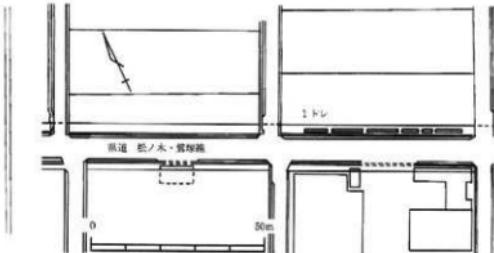
今回の調査は、個人住宅建設と県道拡幅工事に先立ち実施し、表土及びその下層から弥生土器や近世陶器・磁器数点が出土したが、遺構は確認されなかった。



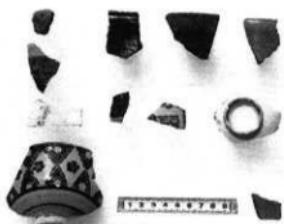
第8図 調査位置 (1 : 10,000)



第9図 発掘区



第10図 発掘区



出土遺物 (No.7)

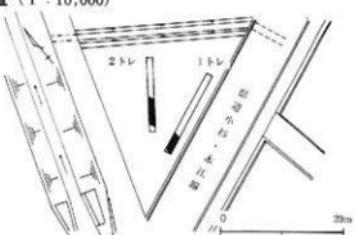
白石発跡 (No.3)

遺跡は、下条川と新堀川に挟まれた標高約1~2mの平野部に立地する。調査地西側の隣接地では、平成3~4年に工場建設に先立ち約4,400㎡の発掘調査が行われ、古墳時代初めの溝と中世の集落跡などが検出されている。

今回の調査は、駐車場建設に先立ち実施し、南北方向にはしる幅約2~3mの溝1条を検出した。溝の埋土から漆塗1点が出土している。時期については不詳である。



第11図 調査位置 (1 : 10,000)



第12図 発掘区

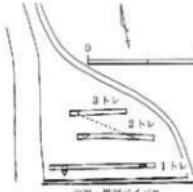
塚越B遺跡 (No.6)

遺跡は、鍛冶川左岸の標高約12mの丘陵裾部に立地し、県道古沢バイパスの建設に先立ち発見されている。

調査地は、平成4年に本調査が行われた調査区に隣接し、試掘トレンチからは、製鉄に関連する溝や土坑が検出された。埋土から土師器・鉄滓・炉壁が出上している。



第13図 調査位置 (1 : 10,000)



第14図 発掘区



調査風景 (西から)



出土遺物 (No.6)

池多1遺跡 (No.12)

遺跡は、東西を谷に挟まれた標高約48mの丘陵先端部に立地する。昭和60年の調査で穴4基と石器・須恵器・鉄滓が出土。今回、遺構遺物は確認されなかった。



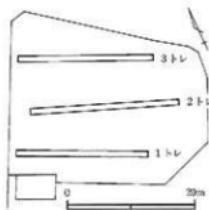
大白北遺跡 (No.13)

遺跡は、下条川左岸の標高約7.5mの平野部に位置し、平成7年の分布調査により確認されている。

調査区には、東西に流れる大きな2条の溝があり、ほ場整備前まで水田の用排水として機能していたものと考えられる。

また、奈良・平安時代・中世の摩滅の少ない遺物が多く出土していることから、ほ場整備により遺物が散在したと考えられ、近隣に集落跡などが存在する可能性がある。

第16図 発掘区



調査地 (西から)



第17図 調査位置 (1 : 10,000)

第18図 発掘区



出土遺物 (No.13)

高寺遺跡 (No.2・9)

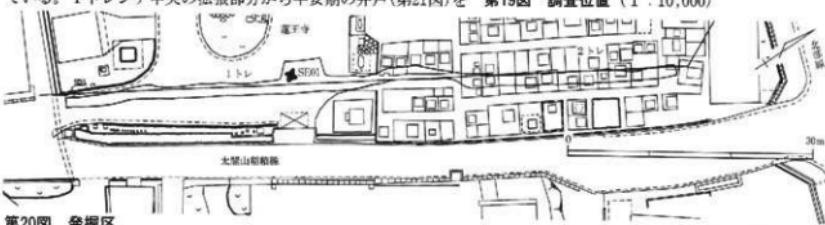
遺跡は、下条川左岸沿いの標高約4.6mの平野部に立地する。

今回の調査は、県道拡幅に伴う道路側溝及びNTTケーブル敷設工事に先立ち、墓地移転などの進捗状況に合わせて実施した。

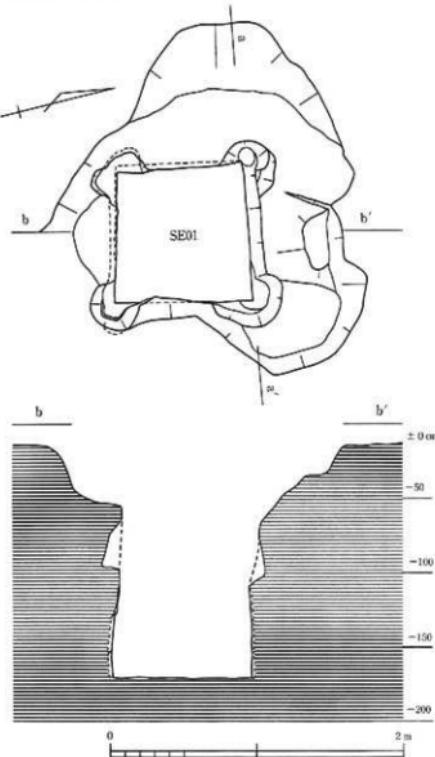
出土遺物は、弥生時代と平安時代から近現代までと多岐に渡っている。1トレンチ中央の拡張部分から平安期の井戸(第21図)を



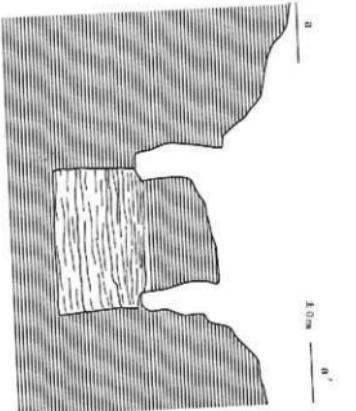
第19図 調査位置 (1 : 10,000)



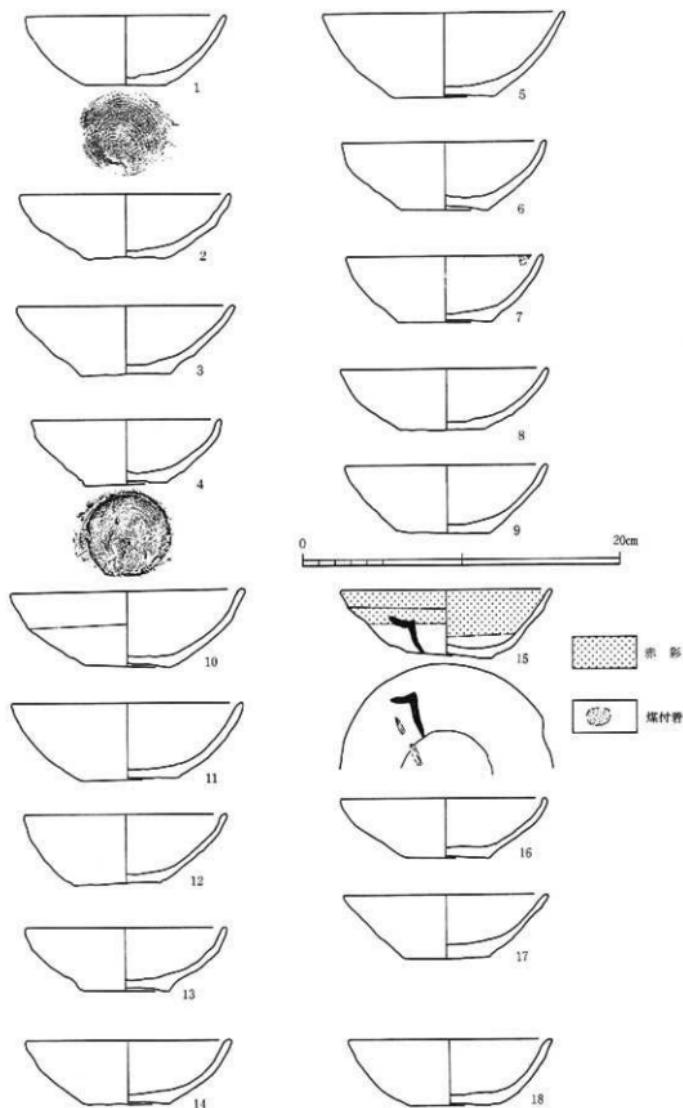
第20図 発掘区



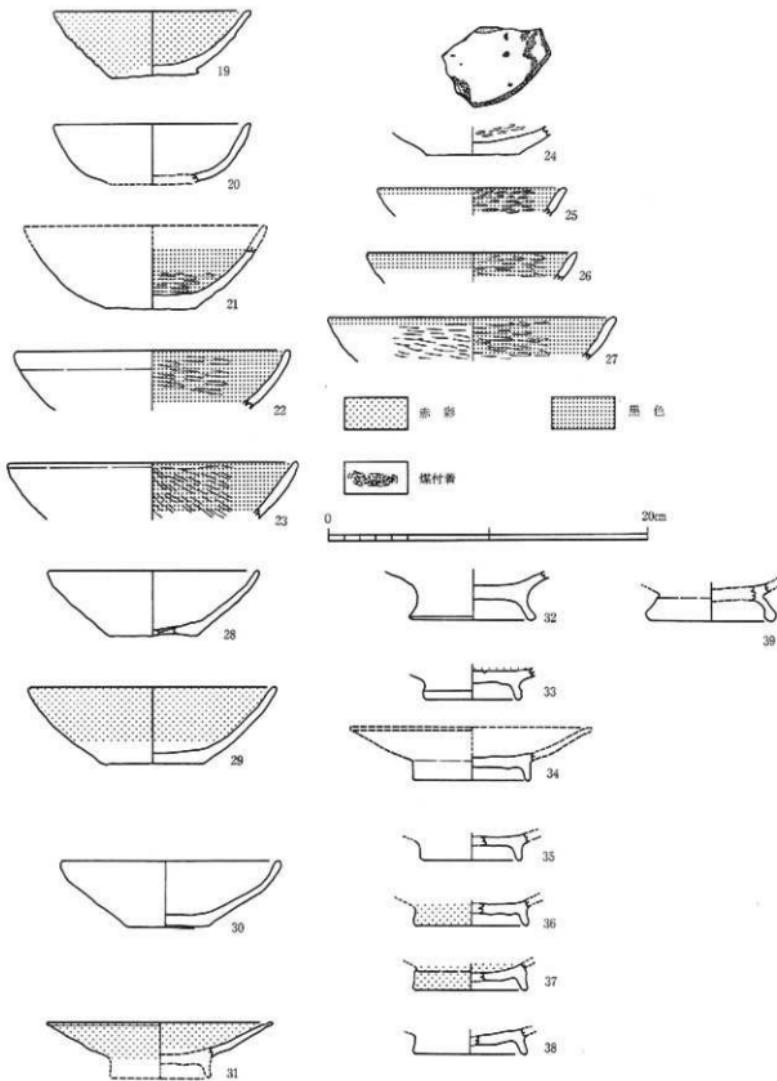
第21図 高寺遺跡 SE01遺構図 (1 / 30)



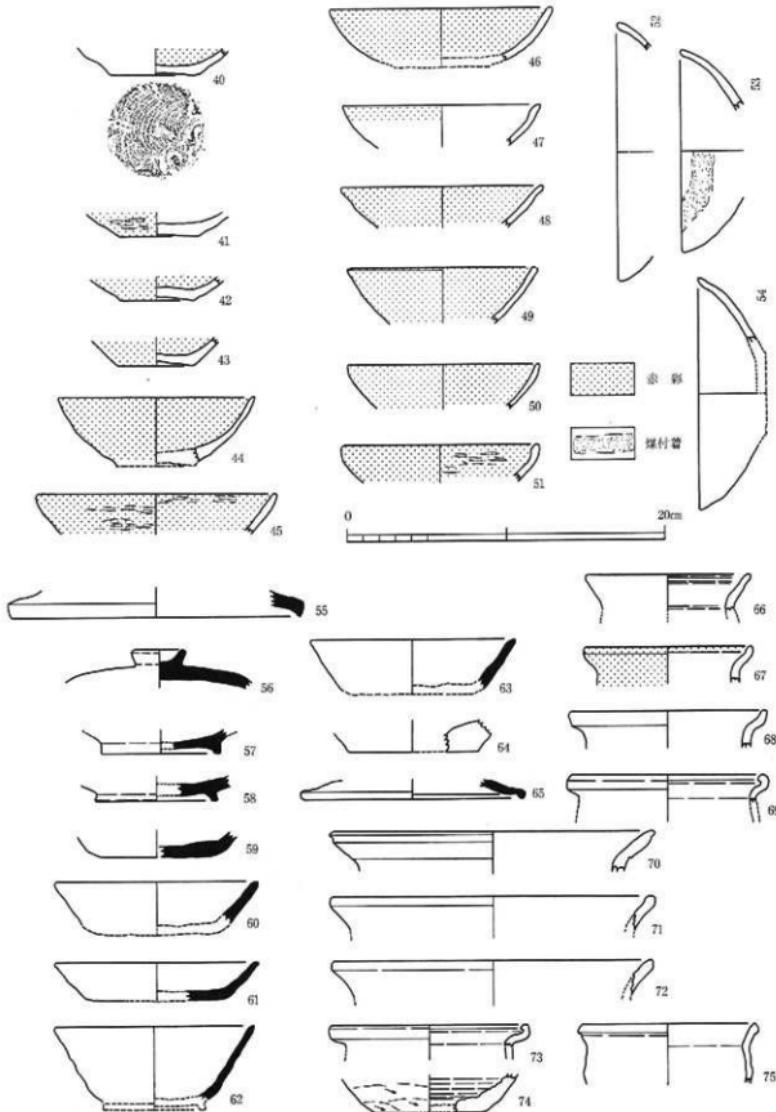
SE01



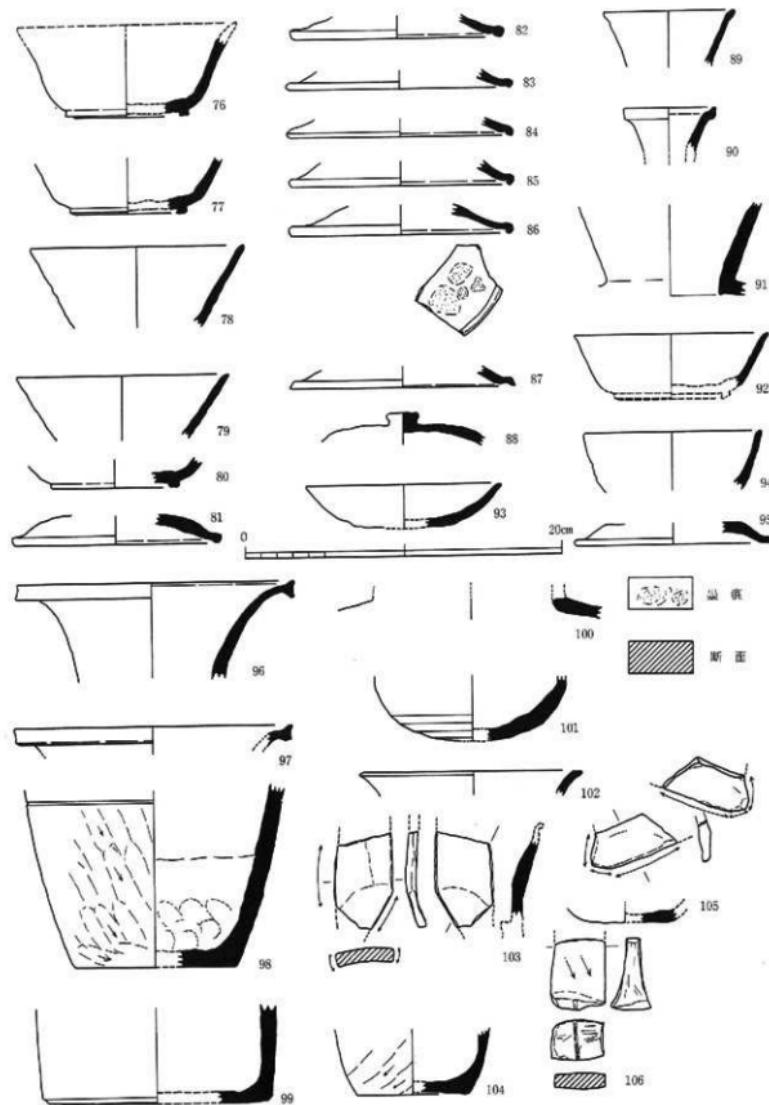
第22図 高寺遺跡 S E 01出土遺物 土師器



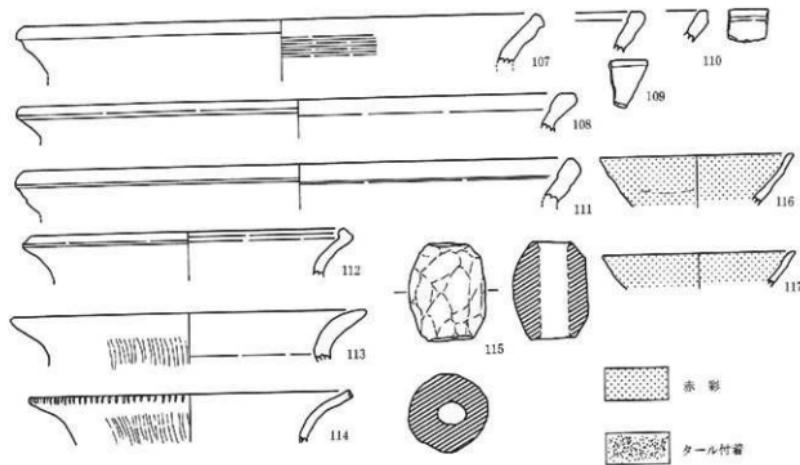
第23図 高寺遺跡 SE01出土遺物 土器器



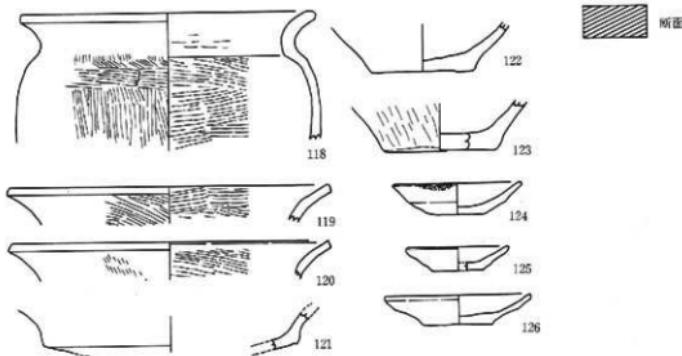
第24図 高寺遺跡 S E 01出土遺物 土師器・須恵器・綠釉陶器



第25図 高寺遺跡 SE01出土遺物 須恵器



第26図 高寺遺跡 SE01出土遺物 土師器・弥生土器



第27図 高寺遺跡 1トレンチ出土遺物

検出している。井戸は一辺が約95cmの方形に掘り込まれ、遺構検出面から井戸底面までの深さは1.6m程である。また井壁が崩れないように底面から高さ60cm、一辺95cm程の方形の木枠が埋設されている。木枠の四隅上端までに直径20cm程の柱穴状の穴が掘り込まれていた。井戸からの主な出土遺物(第22~26図)には、弥生土器数点と須恵器・土師器・縄釉陶器・木製品などがある。1トレンチ北端から2トレンチまでは墓域で、遺物は蔵骨器に使用された珠洲貝片や近世の骨壺などが多く出土している。また2トレンチの北端付近は、江戸時代末以降頃に蓮王寺歴代住職の墓域であったと言われ、土葬の掘り込みと考えられる穴の底面から錫杖・五鉢杵・越中瀬戸皿などが一括して出土した。

4. 本 調 査

平成8年度に町教育委員会で実施した本調査は、ふるさと農道整備事業関連3件と下条川親水公園建設1件、県民公園太閤山ランド内女池後漢工事関連1件の公共事業5件と民間会社の店舗建設の1件であった。

No.	遺跡名	所在地	原因	調査期間	発掘面積	検出遺構	出土遺物
1	H S - 0 4 (381004)	大江151-B外	ふるさと農道建設	H8. 4. 5 ~ 7. 29 (延べ72日間)	2,200m ²	溝21条・井戸2基 土坑23・柱穴状ピット	弥生土器・須恵器・土器器・楽器 鏡中瀬戸・瓶戸美濃・伊万皿 木製品(箸・杓子・扇子板・曲物) 金属製品(釘・古錢)石製品(磁石)
2	H S - 0 4 (381004)	戸破字神田4426-1 外	下条川親水公園 建設	H8. 4. 4 ~ 12. 18 (延べ163日間)	3,180m ²	溝・井戸・闊溝・土 坑(弥生末~古墳) 柱穴・溝・井戸 (中世)	弥生土器・石器・玉製品・土師器 須恵器・中世土器・鏡・青磁 白磁・木製品・金屬製品・近世陶磁器
3	中山北B (381034)	戸破字加茂1639	店舗建設	H8. 5. 27 ~ 6. 3 (延べ5日間)	210m ²		織文土器・弥生土器・須恵器・樂器 中世土器・近世陶器
4	愛 宮 (381002)	三ヶ152-1外	ふるさと農道建設	H8. 9. 20 ~ 11. 20 (延べ35日間)	400m ²	溝8条・井戸4基 土坑8 柱穴状ピット44	弥生土器・須恵器・樂器・瓦質土器 中世土器・青磁・近世陶器 石製品(碧玉等・靴石・火輪) 木製品(瓶戸側・井戸枠・まな板 曲物桶・箸・鍋・下駄) 金属製品(キセル・寛永通宝)
5	H S - 0 3 (381003)	三ヶ256-1外	ふるさと農道建設	H8. 11. 1 ~ 12. 5 (延べ20日間)	700m ²	溝3条	弥生土器・珠鏡・鏡中瀬戸 木製品(板材・漆側板)
6	太閤山ランド 内No.7 (381074)	黒河4774-6 (女池内)	女池後漢工事	H9. 1. 14 (延べ1日間)	4.5m ²	土坑1	表揮の須恵器 1点
計	5 遺跡	延べ 296日間	発掘面積 6,694.5m ²				

④ 遺跡名下の番号は富山県埋蔵文化財図録地図の遺跡番号を示す。

表3 本調査実績一覧

H S - 04 遺跡 [No. 1]

今回の調査地は、平成3年度に実施した戸破若宮遺跡の北側に位置する。検出した主な遺構は、奈良~平安時代の土坑や溝と中世の井戸のはか近世以降の用排水路跡などである。



第28図 調査位置 (1 : 10,000)



H S - 04 遺跡発掘区 (東から)



井戸底面から出土の曲物

HS-04遺跡〔No.2〕

遺跡は、弥生時代から近世までの遺構、遺物が確認された。中心となる時代は、弥生時代末から古墳時代初頭と中世の二時期に、集落が形成されていた。

弥生時代末から古墳時代初頭にかけて営まれた遺構の中に2条の周溝が確認され、溝内からは大量の土器が出土した。また、中世の遺構は溝により方形に区画され、中には掘立柱建物（3間×4間）が検出された。



第29図 調査位置 (1 : 10,000)



出土遺物〔No.2〕

愛宕遺跡〔No.4〕

遺跡は、下条川左岸沿いの標高約2.3mの平野部に立地する。

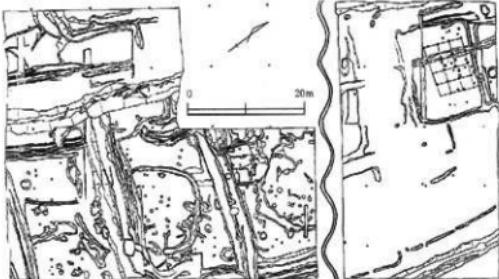
今年度は、調査対象地（1,800m²）の西端部分の約400m²で実施し、残りの調査区は平成9年度に行う予定である。

調査から、弥生時代末と中世の二時期を中心とする集落跡が確認されている。遺物には、中世の井戸底から包丁とまな板の完形品なども出土している。

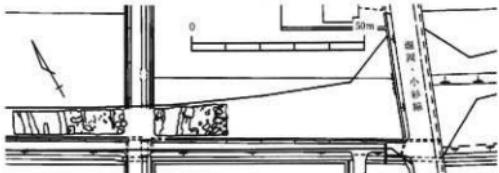
HS-03遺跡〔No.5〕

遺跡は、標高約1.5mの平野部に立地する。今回の調査対象地西側は大島町との境界に接し、発掘区西端ははっきりした地山がなく腐植土の厚い堆積層が確認されている。

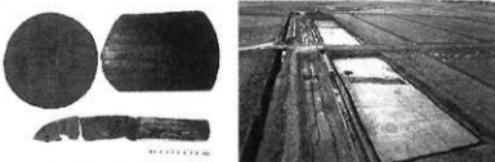
検出遺構は、弥生時代の溝1条と時期不詳溝1条である。



第30図 発掘区

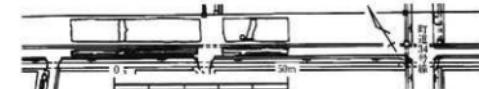


第31図 発掘区



出土遺物〔No.4〕

HS-03遺跡発掘区（東から）



第32図 発掘区

5. 普及・活用

(1) 整理室（太閤山小学校）の見学

整理室では、平成2年に実施した赤坂C遺跡（太閤山カントリークラブ地内遺跡）の報告書作成のため、須恵器窯跡から出土した須恵器の実測・トレース・統計資料の作成と、平成4・5年に調査した天池C遺跡（小杉インターパーク）の須恵器の実測、平成6年調査の赤坂遺跡（太閤山公園墓苑）の報告書作成作業を中心に、調査遺跡の報告書刊行に伴う遺物整理や図面の作成を行ってきた。また、今年度の発掘調査で出土した遺物の洗いや出土地を記す注記作業を進めてきた。

平成9年4月中旬には整理室が移転（旧シルバー人材センター）することになり、2月末から3月末にかけて移転に伴う準備を行った。

整理室には、次の見学があった。6月13日㈭に小杉中学校生徒（約20名）の見学。8月2日㈮に青少年探検隊（町内小学校児童25名）の見学。9月9日㈭に町環境課委員（10名）の見学。3月26日㈭に町新任職員（8名）の見学。

(2) 報告書等の刊行

平成8年度事業として小杉町教育委員会が1997年3月に刊行のものは以下のとおりである。

- ①『赤坂遺跡発掘調査報告』(A4版P16、図版6)
- ②『太閤山カントリークラブ地内遺跡埋蔵文化財調査報告』—赤坂A・B・C・D・E遺跡、野田池A遺跡—
- ③『小杉町埋蔵文化財発掘調査一覧 1996年度』(A4版P16)



整理作業風景（太閤山小学校内）

小杉町埋蔵文化財発掘調査一覧 1996年度

平成9年3月31日発行

編集・発行 小杉町教育委員会

富山県射水郡小杉町戸破1511

〒939-03 TEL (0766) 56-1511

印 刷 島 木 印 刷
